

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

社員の幸せを考え社会に迷惑をかけない経営 堀越 寛 (伊那食品工業会長)

1. 世間から注目してもらえるのは、経営理念がずっと変わってないからでしょう。ちなみに伊那食品工業の社是は「いい会社をつくりましょう」。「良い」ではなくても、ひらがなの「いい」。みんなで日常会話の中で「いい会社だね」って言って下さるような会社にすること。「良い会社」というと、売上高だの利益だの株価だの、経営上の数字で優秀な会社というイメージでしょう。そうじゃなくて、うちが目指すのは「いい」。
2. この「いい会社をつくりましょう」を社是にして、もう 30 年経ちます。会社はどうあるべきかをいつも言ってます。あるべき姿、「道」ですね。会社の道とは何かといえば、一人でも多くの社員を幸せにすること。だから人件費はコストではありません。より多くの報酬をあげて幸せにする。そのための手段です。実際に給料もボーナスも毎年上げています。一度も減ったことはない。もちろんリストラもずっとなしです。
3. そして社会に迷惑をかけないようにすること。この絶対人に迷惑をかけないようにすることには、一本筋を通しています。例えば、社員が朝、車で通勤するときは渋滞を招く右折は禁止。仕入先に振り込むときも、送金料を引かないで振込みます。これからも会社を少しずつ成長させて堅実な経営をしていきます。
(参考:「週刊東洋経済」2011 年 4 月 23 日号)

経営者のための営業学

他社を引き離すインドのスズキ

1. 東日本による部品供給不足から、インドでもほとんどの自動車メーカーが減産を余儀なくされている。そうした最中、スズキの子会社、マルチスズキは 4 月、5 月と減産どころか、増産体制を矢継ぎ早に推し進めている。同社は現在、約 700 億円を投じてハリヤナ州マネサルに第 2、第 3 の工場 (年産各 25 万台) を建設する考えだ。
2. 今年と来年の 2 年間で 2300 人を採用し、従業員数も現状の 27% 増となる 1 万 1000 人規模となる。しかも話はそれで終わらない。2015 年までに年産 250 万~300 万台体制の実現を目指し、来年 4 月までに新たな増産計画を策定する。マルチスズキの現地調達率は 9 割超。同社はいまやグローバルリスクに極めて強い稀有な自動車メーカーともいえる。

(参考:「WEDGE」: 2011 年 6 月号)

新規成長分野

省電力型先端産業を東北に

野口 悠紀雄

(早稲田大学ファイナンス総合研究所顧問)

1. 東日本大震災によって、電力多消費産業である製造業は、自動的に西日本に移るはずある。問題は省電力産業をどのようにして東日本に移すかだ。そこで考えられるのは、国や公的主体が中心となって、大規模な研究センターや医療センターを東北地方につくり、これを復興の核とすることだ。また教育機関の東北への移動も支援する。
2. 東北地方につくられる大規模な研究センターは、時代の要請から言えば、地震研究、バイオ、医療などということになるだろう。ただし、省電力型のものでなければならない。それを考えると、リスクマネジメント、通信、情報処理関係の研究が考えられる。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2011 年 4 月 30 日・5 月 7 日号)

古典に学ぶ

目や耳を塞がれるな

「いよいよ上れば、則ちいよいよ耳目なり。そのようへいする者衆ければなり。いよいよ下れば則ちいよいよ聡明なり。その見聞する者真なればなり」

(訳)「呻吟語」の言葉です。「地位が高くなればなるほど、耳が聞こえなくなり目が見えなくなる。それだけ耳や目をふさぐ者が多くなるからである。逆に、地位が低くなればなるほど、耳が聞こえ目が見えるようになる。それだけ実情が見えたり、聞こえたりするからである」というのです。

(参考：守屋 洋「リーダーのための中国古典」：日経ビジネス人文庫)